# 江戸東京たてもの園

# 主な事業

## 復元建造物の展示

現地保存が不可能な江戸時代から昭和中期までの
30棟の歴史的建造物を移築し、
復元・保存展示するとともに貴重な文化遺産として次代に継承している。

# センターゾーン

たてもの園の出入口となるビジターセンターを中心に、歴史を伝える建物を展示している。

凡例 ・建物名、移築前住所／建設年／復元年 ・復元年が1993年（平成5）以前の建物は、旧武蔵野郷土館収蔵の建物

## C1 ビジターセンター（旧光華殿）

千代田区千代田／1940年／1941年

1940年（昭和15）に皇居前広場で行われた紀元2600年記念式典のために仮設された式殿を翌年移築した。1954年（昭和29）より武蔵野郷土館として使用され現在はたてもの園のビジターセンターとして利用している。

## C2 旧自証院霊屋（きゅうじしょういんおたまや）

千代田区紀尾井町／1652年／1995年

尾張藩主徳川光友の正室千代姫が、その母お振の方(3代将軍家光の側室)を供養するために建立した霊屋で、東京都指定有形文化財。

## C3 高橋是清邸

港区赤坂七丁目／1902年／1993年

広大な庭園の一部と主屋の部分を復元した。主屋は総桧普請（そうつがぶしん）で、洋間の床は寄木張り。2階の書斎・寝室は、1936年（昭和11）2・26事件の現場となった。

## C4 西川家別邸

昭島市中神町二丁目／1922年／1993年

北多摩屈指の製糸会社を設立した実業家西川伊左衛門が隠居所及び接客用に建てた邸宅である。

## C5 伊達家の門

港区白金二丁目／大正期／1965年頃

旧宇和島藩伊達家が大正時代に建てた屋敷の表門で起（むく）り屋根（やね）の片番所を置くなど、大名屋敷の門を再現したような形をもつ。

## C6 会水庵

杉並区西荻北五丁目／大正期頃／1998年

宗徧流（そうへんりゅう）の茶人山岸宗住（会水）が建てた茶室を1957年（昭和32）に劇作家宇野信夫が買い取り、西荻窪に移築した。

# 西ゾーン 山の手通りに面して、さまざまな建築様式の住宅を復元している。

## W1 常盤台写真場

板橋区常盤台一丁目／1937年／1997年

健康住宅地として開発された郊外住宅地の常盤台にあった写真場である。安定した照度を得るために、2階写場北側の大きな窓には磨(す)りガラスがはめ込まれている。

## W2 三井八郎右衛門邸

港区西麻布三丁目／主屋1952年・土蔵1874年／1996年

主屋の客間と食堂部分は1897年（明治30）頃京都に建てられ、戦後西麻布に移築された。東京都指定有形文化財。

## W3 奄美の高倉

鹿児島県大島郡宇検村／江戸末期頃／1966年

奄美大島にあった高床式の倉庫である。このような高床式の建物は、東京の八丈島にも見られる。小金井市指定有形文化財。

## W4 吉野家（農家）

三鷹市野崎二丁目／江戸後期／1963年

吉野家は野崎村の名主役を務めた家といわれ、式台付きの玄関や付け書院のある奥座敷に格式を見ることができる。小金井市指定有形文化財。

## W5 八王子千人同心組頭の家

日野市日野／江戸後期／1993年

八王子千人同心とは、江戸時代、八王子に配備された徳川家の家臣団である。拝領屋敷地の組頭の家は、式台付きの玄関など格式の高さを表している。

## W 6 前川國男邸

品川区上大崎三丁目／1942年／1996年

日本の近代建築の発展に貢献した建築家前川國男の自邸である。外観は切妻屋根の和風で、内部は吹抜けの居間を中心に書斎・寝室がある。東京都指定有形文化財。

## W 7 田園調布の家（大川邸）

大田区田園調布四丁目／1925年／1995年

郊外住宅地の一つ、大田区田園調布に建てられた住宅である。居間を中心に、食堂、寝室、書斎が配置され、全室洋間となっている。

## W 8 綱島家（農家）

世田谷区岡本三丁目／江戸中期／1997年

広間型の間取りをもつ茅葺きの民家で、広間を囲む長方形断面の大黒柱や、押し板という古い形式の装置に歴史が感じられる。

## W 9 小出邸

文京区西片二丁目／1925年／1998年

日本のモダニズム運動を主導した堀口捨己（ほりぐちすてみ）が、ヨーロッパ旅行からの帰国直後に設計した住宅である。当時オランダで流行していたデザインに、日本の伝統的造形を折衷した造りになっている。東京都指定有形文化財。

## W 10 デ・ラランデ邸

新宿区信濃町／1910年頃／2013年

元は、気象学者で物理学者の北尾次郎が自邸として設計したと伝わる平屋建ての洋館だったが、ドイツ人建築家ゲオルグ・デ・ラランデにより3階建てに大規模増築された。

# 東ゾーン

商店が建ち並び下町の風情を楽しめる。建物の中では、当時の暮らしや商品、商売道具なども展示している。

## E1 天明家（農家）

大田区鵜の木一丁目／18世紀後半／1982年

江戸時代、鵜ノ木村で重職を務めた旧家である。正面に千鳥破風をもつ主屋、長屋門、枯山水庭園に高い格式がうかがえる。小金井市指定有形文化財。

## E2 小寺醤油店

港区白金五丁目／1933年／1993年

庇の下の腕木とその上の桁が特徴の出桁造りの商家である。大正期から白金で味噌、醤油、酒類を販売していた。

## E3 鍵屋（居酒屋）

台東区下谷二丁目／1856年／1975年頃

1856年（安政3）に酒問屋として建てられたと伝わる居酒屋である。建物と店内は、1970年頃の姿に復元している。

## E4 子宝湯

足立区千住元町／1929年／1993年

東京の銭湯を代表する建物である。大型の唐破風、玄関上の七福神の彫刻、脱衣所の折上げ格天井など、贅をつくした造りとなっている。

## E5 仕立屋

文京区向丘一丁目／1879年／1994年

明治前期に建てられた出桁造りの町家である。内部は、大正期の仕立屋の仕事場を再現している。

## E8 万世橋交番

千代田区神田須田町一丁目／明治後期（推定）／1993年

万世橋のたもとにあった元は交番であった建物。煉瓦造り、外壁は化粧タイル張りで、移築時にはトレーラーでそのまま運んだ。

## E6 武居三省堂（文具店）

千代田区神田須田町一丁目／1927年／1993年

創業は明治期で、書道用品の卸から小売店に変わった。震災後に建てられた看板建築で、前面がタイル張りになっている。

## E7 花市生花店

千代田区神田淡路町一丁目／1927年／1994年

建物の正面に、銅板を用いて花屋らしくデザインした看板建築である。内部は昭和30年代の様子を再現している。

## E9 植村邸

中央区新富二丁目／1927年／1998年

建物の前面を銅板で覆った姿から看板建築の特徴がよく出ている。
外観は全体的に洋風だが、建物の2階部分は和風の造りとなっている。

## E10 丸二商店（荒物屋）

千代田神田神保町三丁目／昭和初期／1998年

小さな銅板片を巧みに組み合わせて模様を作り、建物の正面を飾っている。裏手には長屋を移築し、路地の様子も再現している。

## E 11 村上精華堂（化粧品屋）

**台東区池之端二丁目／1928年／1999年**

不忍（しのばず）通りに面し、化粧品などを扱っていた看板建築である。建物の外観はイオニア式の列柱を表現しているのが特徴的である。

## E 12 川野商店（和傘問屋）

**江戸川区南小岩八丁目／1926年／2000年**

出桁（だしげた）造りの商家で、内部では1930年頃の店先を再現している。和傘づくりに用いる材料や道具、番傘や蛇の目傘などを展示している。

## E 13 大和屋本店（乾物屋）

**港区白金台四丁目／1928年／2011年**

木造3階建てで、3階の軒下を伝統的な出桁造りにする一方、間口に対して背が高いその姿は、看板建築のようでもある。

## E 14 万徳旅館

**青梅市西分町／江戸末期～明治初期／2011年**

青梅市西分町の青梅街道沿いにあった旅館である。建物は創建当初に近い姿に、室内は1950年頃の様子を復元している。

# 復元建造物の管理保全

**文化的価値の高い建造物を長期にわたって維持していくために、定期的に改修・修繕工事を行っている。**

## 耐震補強工事

2016年（平成28）に発生した熊本地震を契機として、復元建造物の耐震性を改めて見直した。その結果、補強が必要な建造物が新たにあることが判明し、2018年（平成30）度から2020年（令和2）度にかけて、天明家（農家）主屋、前川國男邸、田園調布の家（大川邸）、小出邸の耐震補強工事を実施した。

耐力壁（筋交い）の設置（天明家）

小屋組へ補強材の設置（前川邸）

2階床下へ水平ブレースの設置（小出邸）

**これまでの耐震補強工事の履歴**

| | |
|---|---|
| 2003年（平成15）度 | 高橋是清邸<br>小寺醤油店 |
| 2004年（平成16）度 | 子宝湯<br>武居三省堂（文具店）<br>花市生花店 |
| 2005年（平成17）度 | 常盤台写真場<br>西川家別邸<br>丸二商店（荒物屋）店舗併用住宅 |
| 2006年（平成18）度 | 八王子千人同心組頭の家<br>鍵屋（居酒屋）<br>村上精華堂（化粧品屋） |
| 2007年（平成19）度 | 吉野家（農家）<br>綱島家（農家） |
| 2008年（平成20）度 | ビジターセンター（旧光華殿） |
| 2018年（平成30）度 | 天明家（農家）主屋 |
| 2019年（平成31）度 | 前川國男邸<br>田園調布の家（大川邸） |
| 2020年（令和2）度 | 小出邸 |

耐力壁（構造用合板）の設置（田園調布の家）

## 屋根葺き材のメンテナンス

屋根の仕上げ材である屋根葺き材について、劣化した材の更新を順次行った。屋根瓦については、瓦の全数調査を行い、傷みが確認されたもののみを取り換えている。また屋根の工事にあわせて、雨樋の補修や、瓦葺き屋根の棟積みへ耐震金具の取り付けなども行った。

| | |
|---|---|
| 2013年（平成25）度 | 天明家（農家）主屋・長屋門 |
| 2014年（平成26）度 | 八王子千人同心組頭の家 |
| 2016年（平成28）度 | 綱島家（農家）・三井八郎右衛門邸・伊達家の門・小寺醤油店・鍵屋（居酒屋）・仕立屋・川野商店（和傘問屋） |
| 2017年（平成29）度 | 常盤台写真場・小出邸・会水庵・子宝湯 |
| 2018年（平成30）度 | 高橋是清邸・西川家別邸・田園調布の家（大川邸） |
| 2019年（平成31）度 | 植村邸・村上精華堂（化粧品屋）・子宝湯ボイラー室屋根防水工事 |
| 2020年（令和2）度 | 伊達家の門 |
| 2021年（令和3）度 | 奄美の高倉 |

茅葺屋根葺き替え（八王子千人同心組頭の家）

瓦屋根補修（村上精華堂）

## 雨漏り緊急修繕工事

丸二商店（荒物屋）店舗併用住宅、小出邸では、屋根形状や軒の納まりなどに起因する雨漏りが発生していた。この工事では、雨漏りによって腐朽した材を繕うと共に、雨水進入の原因やその解決方法について慎重に議論を重ねたうえで、再び雨水が建物内部に侵入しないような改良を建物へ施した。

| | |
|---|---|
| 2016年（平成28）度 | 丸二商店（荒物屋）店舗併用住宅 |
| 2017年（平成29）度 | 小出邸 |

屋根谷位置変更前（丸二商店）

屋根谷位置変更後（丸二商店）

フラットルーフ修理前（小出邸）

フラットルーフ修理中（小出邸）

## 修繕計画に基づく修繕工事

1993年（平成5）の開園から数十年が経過し、復元建造物の各所で劣化が目立ち始めたことから、2018年（平成30）度に向こう10年の復元建造物30棟の修繕計画を策定した。建物の屋根葺き材や塗装、設備機器などは一定期間で劣化し、手を入れていく必要があるが、一度に何棟もの建物を修繕することは来園者サービスや予算の確保の点で困難であるため、計画的に修繕を行う必要がある。現在はこの計画に基づき修繕を進めている。

| | |
|---|---|
| 2019年（平成31）度 | 前川國男邸、田園調布の家（大川邸）<br>※兼耐震補強工事 |
| 2020年（令和2）度 | 小出邸 ※兼耐震補強工事 |
| 2021年（令和3）度 | 常盤台写真場・奄美の高倉・植村邸・<br>丸二商店（荒物屋） |
| 2022年（令和4）度 | 鍵屋（居酒屋）・花市生花店・万世橋交番・<br>村上精華堂（化粧品屋） |

外壁柿渋塗装塗直し（前川邸）

銅板継目コーキング（植村邸）

建具・手摺ペンキ塗装塗直し（丸二商店）

電気幹線交換（常盤台写真場）

外壁下見板張補修（花市生花店）

看板文字補修（花市生花店）

# 特別展

前身の旧武蔵野郷土館から引き継いだ資料や園内の建造物、多摩地域の歴史と文化など
さまざまなテーマの展覧会をビジターセンター奥の展示室にて年数回実施している。
本誌では2014年（平成26）度以降に開催した特別展を掲載した。

## 2014年（平成26）度

## 2015年（平成27）度

①

特別展

### ジブリの立体建造物展

**2014年（平成26）7月10日～2015年（平成27）3月15日**

**担当者　早川典子**

スタジオジブリ作品に登場する建造物の背景画や美術ボード、美術設定などの資料や、代表的な建造物の模型を展示。

②

特別展

### 下布田遺跡

**武蔵野の歴史と考古学**

**2015年（平成27）3月28日～5月17日**

**担当者　松井かおる**

武蔵野郷土館から引き継いだ考古資料のうち、調布市下布田遺跡の出土資料に焦点をあてた展覧会。同館が行った発掘調査の様子やその成果を紹介。

③

特別展

### モダン都市の文学誌

**描かれた浅草・銀座・新宿・武蔵野**

**2015年（平成27）6月2日～7月20日**

**担当者　湯川説子**

川端康成、永井荷風、龍膽寺雄、横光利一の作品から、1923年（大正12）に発生した関東大震災後の東京の街を読み解いた展覧会。

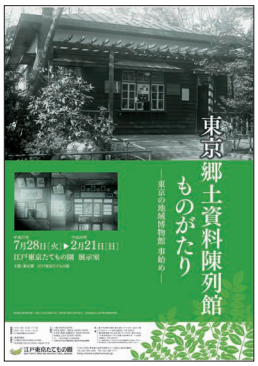
## 2016年（平成28）度

④

特別展

### 東京郷土資料陳列館ものがたり

**東京の地域博物館 事始め**




**2015年（平成27）7月28日～2016年（平成28）2月21日**

**担当者　松井かおる**

1934年（昭和9）に開館した「東京郷土資料陳列館」は、当時の東京市が手掛けた初の地域博物館である。同館の展示構成をもとに当時の展示を可能な限りよみがえらせ、東京の地域博物館の歴史を振り返った。

⑤

特別展

### 小金井の桜

**春の江戸東京名所めぐり**

**2016年（平成28）3月8日～5月8日**

**担当者　丸山はるか**

小金井の桜を中心に、江戸東京の桜の名所と桜にまつわる風俗を、江戸東京博物館コレクションである錦絵や工芸品などを通して紹介。

⑥

特別展

### 武蔵野の歴史と考古学

**江戸東京たてもの園収蔵品展**

**2016年（平成28）5月24日～2017年（平成29）1月22日**

**担当者　阿部由紀洋**

武蔵野郷土館から引き継いだ考古資料のうち、縄文時代の遺跡からの出土資料を展示。また当園所蔵の丸木舟の展示にあわせ、実験考古学による丸木舟復元の様子を紹介。

## 2017年（平成29）度

⑦

特別展

### 川崎平右衛門

武蔵野新田開発の立役者

**2017年（平成29）2月7日～5月7日**

**担当者　眞下祥幸**

8代将軍徳川吉宗が主導した新田開発によって誕生した武蔵野新田。その運営を任された川崎平右衛門の事績を振り返った展覧会。

⑧

東京都歴史文化財団連携事業　特別展

世界遺産登録記念

### ル・コルビュジエと前川國男

**2017年（平成29）5月30日～9月10日**

**担当者　米山勇**

前年に上野の国立西洋美術館が世界文化遺産に登録されたことを記念して開催した展覧会。設計者であるル・コルビュジエと彼に直接学んだ前川國男の作品や建築観を、江戸東京たてもの園、東京都美術館、東京文化会館の3館で紹介。

⑨

特別展

### 武蔵野の歴史と民俗

旧武蔵野郷土館収蔵資料展

**2017年（平成29）9月26日～2018年（平成30）3月4日**

**担当者　丸山はるか**

江戸東京たてもの園の前身である武蔵野郷土館、そしてその前身で井の頭自然文化園内にあった武蔵野博物館、さらには、有栖川宮記念公園内に所在した東京郷土資料陳列館をとりあげ、これらの先駆的な施設から江戸東京たてもの園へ至る過程を紹介。

## 2018年（平成30）度

⑩

特別展

東京150年記念

### 看板建築展

**2018年（平成30）3月20日～7月8日**

**担当者　阿部由紀洋**

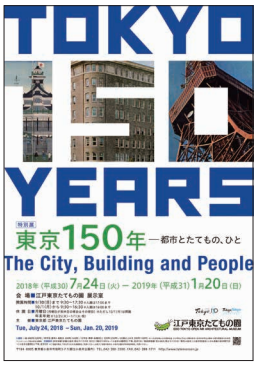
1923年（大正12）の関東大震災と、その後に建てられた仮設住宅の姿などをとりあげ、看板建築誕生のきっかけや建築的な特徴を紹介。

⑪

特別展

### 東京150年

都市とたてもの、ひと




**2018年（平成30）7月24日～2019年（平成31）1月20日**

**担当者　米山勇**

東京誕生150年を記念し、江戸東京博物館の企画展「東京150年」と連動して開催。東京に建てられたさまざまな建造物を通して東京の変遷を紹介し、都市東京の150年において、建築が果たした役割を明らかにした。

⑫

特別展

### 武蔵野の歴史と民俗

「武蔵野郷土館」がのこしたモノたち

**2019年（平成31）2月5日～（令和元）6月23日**

**担当者　丸山はるか**

武蔵野郷土館から引き継いだ資料の中から考古資料や生活民俗資料を展示したほか、蛙をモチーフにした物品の収集家のコレクションを一部紹介。

⑬

特集展示

## FUROSHIKI TOKYO

**2019年（令和元）7月23日～9月29日**

**担当者　新田太郎**

2018年秋、東京都がパリで開催した風呂敷の展示やインスタレーション、ワークショップなど、風呂敷の魅力を世界に発信した「FUROSHIKI PARIS」の報告展。江戸東京博物館と同時開催。

⑭

特別展

## 小出邸と堀口捨己

### 1920年代の創作活動、その造形と色彩

**2019年（令和元）10月16日～2020年（令和2）2月16日**

**担当者　安藤亜由美**

堀口捨己は当園に移築復元している「小出邸」（1925年築）の設計者である。本展では、1920年代に堀口が求めた造形と色彩に注目し、主な活動や作品を紹介。また、それらを通して小出邸の魅力をみつめなおし、堀口の創作の原点に迫った。

⑮

特別展

ぬくもりと希望の空間

## 大銭湯展 1期

**2020年（令和2）3月3日～9月27日**
**会期変更：2020年（令和2）6月2日～9月27日**

**担当者　小林愛恵**

東京の銭湯の歴史をひもとき、銭湯が社会に果たした役割や変遷を紹介しながら、その魅力を伝えた。

## 2021年（令和3）度

⑯

**特別展**

**ぬくもりと希望の空間**

### 大銭湯展 2期

**2020年（令和2）10月24日～2021年（令和3）1月31日**
**会期変更：2020年（令和2）10月24日～12月24日**

**担当者　小林愛恵**

東京の銭湯の歴史をひもとき、銭湯が社会に果たした役割や変遷を紹介しながら、その魅力を伝えた。（展示資料を一部入れ替え）

⑰

**特別展**

**ぬくもりと希望の空間**

### 大銭湯展 3期

**開催中止　2021年（令和3）2月27日～5月30日**

**担当者　小林愛恵**

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休園（2020年［令和2］12月25日～2021年［令和3］5月31日）により開催中止。

⑱

**特別展**

**ぬくもりと希望の空間**

### 大銭湯展 4期

**2021年（令和3）6月26日～9月12日**

**担当者　小林愛恵**

東京の銭湯の歴史をひもとき、銭湯が社会に果たした役割や変遷を紹介しながら、その魅力を伝えた。（展示資料を一部入れ替え）

## 2022年（令和4）度

⑲

**特別展**

### 縄文2021

**縄文のくらしとたてもの**

**2021年（令和3）10月9日～2022年（令和4）5月29日**

**担当者　阿部由紀洋**

江戸東京博物館との同時開催。武蔵野郷土館から引き継いだ資料を中心に縄文人のくらしぶりを紹介するとともに、園内東ゾーンに復元縄文住居を展示。

⑳

**特別展**

### 江戸東京博物館コレクション

**東京の歩んだ道**

**2022年（令和4）6月25日～2023年（令和5）2月12日**

**担当者　阿部由紀洋**

2022年（令和4）4月1日より大規模改修工事のため長い休館に入った江戸東京博物館の常設展をコンパクトにまとめ、展示されていた資料や模型に加え、武蔵野郷土館収集資料も交えながら、東京が歩んできた歴史を紹介。

㉑

**特別展**

### 日本のタイル100年

**美と用のあゆみ**

**2023年（令和5）3月11日～8月20日**

**担当者　沓沢博行**

「タイル」名称統一100年の記念として、建築にいまも欠かせないタイルの歴史を振り返った展覧会。INAXライブミュージアム、多治見市モザイクタイルミュージアムの2館を巡回。

※⑮⑯⑰⑲は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会期の変更または休止・中止となった。詳細はp.12トピックスを参照。

# 情景再現事業

たてもの園では設立の構想段階からすでに復元された街並みの情景を活かした事業の実施が計画されていた。
江戸から昭和期までの文化的価値の高い建造物を復元・展示するとともに、
建物にまつわる情景を再現して当時の生活や商いを想起させる体験型の催しを開催している。
街並みの形成具合によって事業内容の変遷はあるが、試行錯誤を繰り返しながらより楽しめ、かつての時代に没入できる
たてもの園ならではの世界観をつくるべく情景再現事業を展開してきた。
近年では、こどもの日イベント、たてもの園下町夕涼み、紅葉とたてもののライトアップ、
たてもの園でお正月、たてもの園フェスティバルなどを行っている。

## こどもの日イベント（5月4・5日の2日間開催）

ゴールデンウィークの真っただ中、こどもたちの健やかな成長を願いながらさまざまな催しを行う。民家の中で新聞紙で紙の兜を作ったり、広場でベーゴマや竹馬で遊んだり。下町の商店街では、お使いメモとたてもの円、買い物かごを持って商店を巡るお買い物体験ゲームを行っている。

2000年（平成12）5月5日に「昔の子供の遊び体験」として始まり、2004年より「こどもの日イベント」に拡大した。

## 紅葉とたてもののライトアップ（11月下旬開催）

武蔵野の面影を残す雑木林や復元された庭内の樹木が色づき始める頃、特別夜間開園を行い、木々や建造物をライトアップする。紅葉の艶やかな色や、大木の存在感、建物の奥行などが光を当てることで際立ってくる。あわせて建物の中からこぼれ出るあたたかな灯りも見所となり、普段とは違ったたてもの園の魅力を楽しむことができる。

2010年（平成22）11月26日～28日に開始。

## たてもの園下町夕涼み（8月上旬開催）

暑さ真っ盛りの時期でも陽が落ち始める頃から徐々に涼しい風が吹いてきた頃を思いながら、特別に夜間開園をし、下町の夏祭りの情景を再現している。店先に提灯が下がり、広場では盆踊り、復元された商店の営業、懐かしい縁日など、浴衣姿の老若男女が集い賑わっている。

2003年（平成15）7月20日・21日に開始。

## たてもの園でお正月（1月2･3日の2日間開催）

盆暮れ正月。人々が、町が活気付く頃、たてもの園でも正月2日から開園し、みなさまをお迎えしている。縁起物をテーマとし、年中行事である正月の催事を体感していただくために、獅子舞や宝船絵の配布、太神楽、餅つきなどを行っている。

2016年（平成28）1月2日･3日に開始。

## 成人の日はたてもの園へ

新成人のハレの日にささやかながらお祝いの催事を実施。人力車に乗って園内を巡ったり、「常盤台写真場」の写場にて記念撮影を行っている。晴れ着にて来園され、園内も華やかに、そして園内全体でお祝いのムードが漂う催事である。

2019年（平成31）1月14日に開始。

## 伝統工芸の実演（年間24回）

復元建造物「植村邸」が貴金属商で職人との交流があったことに由来し、毎月2日間、東京の伝統工芸士による実演を行っている。演目を変えて2人の伝統工芸士が登場し、ふだんは見ることができない職人の伝統の技を間近で見ることができる。園内東ゾーン「植村邸」と「川野商店」などで開催。

1998年（平成10）6月27日･28日に開始。

## たてもの園フェスティバル（3月下旬開催）

3月28日がたてもの園の開園記念日であることにちなみ、桜が咲き始める頃、建物や生活、たてもの園に関わるさまざまな催しを開催。オリジナルコンテンツの「けんちく体操」や、たてものクイズラリー、復元建造物「子宝湯」内でのコンサートなどを行う。

2011年（平成23）3月28日に開始。

## 綱島家年中行事（年間8回）

江戸中期に建てられた「綱島家」で、聞き取り調査を基に、梅干しづくり、盆、梅の土用干し、十五夜飾り、十三夜飾り、大根干し、小正月・繭玉飾り、節分の年中行事を行う。年中行事によって季節の移り変わりを体感していただいている。

1998年（平成10）2月3日（節分）に開始。

# 教育普及事業

こどもから大人まで、幅広い層に江戸東京の歴史と文化の学び舎を提供し、「学び楽しめる博物館」として、各種の事業を開催している。

## 学校連携事業

野外博物館としての特徴を活かし、復元建造物内で昔の生活道具に実際に触れて、体験学習を行うことができる。

茅葺きの民家の中で火鉢で炭に火をおこすなど、昔のくらしを体験する「昔くらし体験」をはじめ、昔の道具探し、民家の掃除体験、年中行事の体験などを実施している。

また、小学校3年生の社会科の単元「かわってきた人々のくらし」の学習にあたり、授業で活用できる見学シート「昔のくらし」たんけんマップを提供している。

## ミュージアムトーク

毎月第4土曜日に、学芸員が復元建造物や特別展などの解説を行うミュージアムトークを開催している。1994年（平成6）11月に開始し、2022年（令和4）度は、「昭和の思い出、昭和のあこがれ」「特別展『江戸東京博物館コレクション―東京の歩んだ道』みどころ」「田園調布の家（大川邸）のクリスマス」などのテーマで実施。実施時間は14時30分からの約30分から1時間程度で、自由参加となっている。

## さわれる展示

2018年（平成30）から2022年（令和4）に、視覚障害者用にさわれる展示として触察模型「さわれるたてものもけい」を製作した。模型は、建物の全体像がわかるものと、部屋の間取りや材質が感じとれる模型の2種類がある。田園調布の家（大川邸）、吉野家（農家）、子宝湯の3棟を製作したほか、綱島家（農家）、小出邸、前川國男邸、武居三省堂（文具店）、植村邸の外観の模型を製作した。

## ボランティア

ボランティアの活動を生涯学習の場と位置づけ、その活動を通して、来園者サービスの向上を図っている。具体的には、約200人のボランティアが、①茅葺き民家の囲炉裏・竈の燻煙、②園内のガイド、③たてもの園事業への協力、④自主活動を行っていた。

また、近隣の小学3年生以上のこどもたちを対象に、たてもの園内で民家の清掃や来園者へのガイド、昔遊びの指導といったボランティア活動をしてもらう、夏休みボランティア「ひじろっ子」の活動を2002年（平成14）に開始した（2019年以降休止中）。

# デジタルの活用

**野外博物館の特徴を生かした、デジタルの活用を目指している。**

## 360度パノラマビュー

「江戸東京たてもの園に行ってみたいが、どんな建物があるのか、あらかじめ知りたい」「たてもの園に行ったが、時間がなくて全部見られなかった」、などのご意見が多数寄せられているのを受け、「360度パノラマビュー」を製作し、たてもの園のウェブサイトで公開。

このパノラマビューでは、収蔵されている30棟の建造物の内外について、パソコンを操作しながら自由に歩き、見学することができる。自宅にいながら、建造物の細部までウェブサイト上で確認することが可能で、建物によっては非公開の場所も見ることができる。

## 「えらべる 学べる えどまる広場」の開設

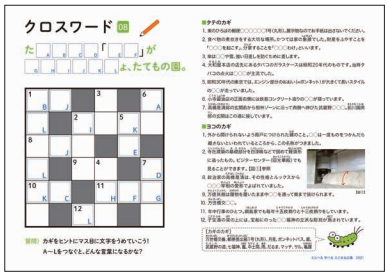
2020年（令和2）7月、コロナ禍の中、こどもたちの学びを支援する目的でたてもの園公式ウェブサイトに教育コンテンツ「えらべる 学べる えどまる広場」を開設。

「みてまなぶ」「しらべてまなぶ」「つくってまなぶ」の3つのコンセプトでスタートし、のちに「えいごでまなぶ」を加えて運用しており、随時更新している。

コンテンツはクロスワードやペーパークラフトなど、園内の復元建造物や屋外展示物、年中行事や四季に関することを取り上げ、年齢や目的に応じて選ぶことができる。

当コンテンツより先行して発信している3Dウォークスルー「360度パノラマビュー」や、ミュージアムショップで販売している『江戸東京たてもの園解説本』などと併用することで、より深い学びにつながるよう構成している。

学校や自宅で、あるいは校外学習やプライベートで来園する際に利用していただくことで、多角的にたてもの園を楽しむことができる。



## 音響MR

障害者のアクセシビリティ向上や芸術文化の新しい鑑賞方法、イノベーションの創出を目指す「だれもが文化でつながるプロジェクト」の一環として、たてもの園では2021年（令和3）度に新たな音声ガイドアプリの開発に取り組んだ。

株式会社GATARIが開発したMRプラットフォーム「Auris」は、3D空間にモノのように音声を配置することが可能で、本アプリではその機能を活用し当園東ゾーンの復元建造物に解説音声や環境音などを埋め込んで、視覚と音声情報をシームレスに融合する新たな鑑賞体験を提案。2022年（令和4）1月には関係者向けに体験会を実施し、文化財への物理的な干渉無しで実現できる手軽さと、音響を加えることで生まれる建築鑑賞のシナジーは高い評価を得た。

専用のデバイスを装着

体験会風景

# その他の事業

**園内のバリアフリー化の推進や、たてもの園友の会への支援、幅広い層へ向けた広報活動など多彩な事業を展開している。**

## 『江戸東京たてもの園だより』（含む広報活動）

たてもの園では紙媒体とWeb媒体の双方を活用した広報活動を展開している。紙媒体では、展覧会のポスター・チラシの配布や年2回発行の広報誌『江戸東京たてもの園だより』（1993年11月創刊）の発行により、幅広い年齢層へ向けた周知に努めるほか、歴史・建築系雑誌などへの広告掲載なども効果的に行っている。

Web媒体では、従来からのHP運営に加えてSNSの活用にも取り組み、現在テキストベースでの情報を重視したX（旧Twitter）・Facebookと、写真による園の魅力発信を重視したInstagramをそれぞれ運用し、新たな客層の獲得にもつなげている。近年は当園での動画撮影、配信を希望されるお客様が増えていることから、今後は広報動画の製作・配信も行っていく予定である。

江戸東京たてもの園Instagram

江戸東京たてもの園だより

## 園内のバリアフリー化の推進

### ◆太鼓橋　傾斜を緩やかに

万世橋交番近くにかかる太鼓橋は、以前は傾斜が大きく、車椅子使用者が自力で通過することは困難だった。そのため2019年（平成31）度に傾斜を緩やかにする工事を行った。

工事前

工事後

### ◆高橋是清邸　登り階段へ補助手摺を追加

2017年（平成29）度に、これまで片側のみであった補助手摺を、向かい側にも設置し、階段の登りやすさを向上させた。

工事後

### ◆子宝湯　手すり付きスロープを設置

2021年（令和3）度に、子宝湯東側へ新たに鉄筋コンクリート造のスロープを設置。スロープの出入口の位置や経路は、歴史的建造物保護の観点や、子宝湯正面からのスロープ入口の視認性の高さなど、使いやすさを優先し計画した。また景観にも配慮し、子宝湯～仕立屋間の柳と竹垣の一部は残すよう努めた。

工事前

工事後（スロープを東側から見る）

工事後（スロープ入口を南側から見る）

工事後（スロープを北側から見る）

### ◆ユニバーサルガイドブック

さまざまな方が園内で快適に過ごせるよう、バリアフリーの観点から施設情報をまとめたパンフレットを2021年（令和3）度に作成した。

## たてもの園友の会への支援

たてもの園友の会は、江戸東京の建造物・歴史・文化・生活に関する知識をより深めることを目的とした自主的な組織として2001年（平成13）度に結成された。年会費は1,500円（新規入会時のみ1,700円）で、たてもの園の入園料が1年間無料になるほか、ミュージアムショップ・飲食施設での優待などの会員特典、会員が自主的に企画する講演会や研修会などに参加できる。たてもの園にくり返し来園される方、たてもの園の情報を確実に知りたい方、江戸東京の建造物や歴史への関心を持つ方などの期待に応えるべく活動を行っている。2016年（平成28）度からは会報『たてもの園友の会かわら版』を年1～2回発行している。

江戸東京たてもの園ではこのような友の会の活動を支援している。

# 施設紹介

あふれる緑の中によみがえった建物が、江戸東京の歴史と文化を伝えている。
園内のレストランやカフェは憩いの場となっている。
敷地面積は70,164㎡。展示室面積は300㎡。

## 復元建造物 Reconstructed buildings

### 西ゾーン West Zone

- W1 常盤台写真場 Tokiwadai Photo Studio
- W2 三井八郎右衛門邸 Residence of Hachirouemon Mitsui
- W3 奄美の高倉 Elevated Granary from Amami-Oshima Island
- W4 吉野家(農家) Farmhouse of the Yoshino Family
- W5 八王子千人同心組頭の家 House of the Leader of the Hachioji Guards (Hachioji-sennin-doshin)
- W6 前川國男邸 House of Kunio Mayekawa
- W7 田園調布の家(大川邸) House of Okawa in Den'enchofu
- W8 綱島家(農家) Farmhouse of the Tsunashima Family
- W9 小出邸 House of Koide
- W10 デ・ラランデ邸 House of Georg de Lalande

### センターゾーン Center Zone

- C1 ビジターセンター(旧光華殿) Visitor Center (Former "Kokaden" Palace)
- C2 旧自証院霊屋 Jisho-in Mausoleum (Otama-ya)
- C3 高橋是清邸 House of Korekiyo Takahashi
- C4 西川家別邸 Second House of the Nishikawa Family
- C5 伊達家の門 Gate of Date Family Residence
- C6 会水庵 Tea Arbor "Kaisuian"

### 東ゾーン East Zone

- E1 天明家(農家) Farmhouse of the Tenmyo Family
- E2 小寺醤油店 "Kodera" Soy Sauce Shop
- E3 鍵屋(居酒屋) Bar "Kagiya"
- E4 子宝湯 Public bathhouse "Kodakara-yu"
- E5 仕立屋 Tailor's workshop
- E6 武居三省堂(文具店) Stationery Store "Takei Sanshodo"
- E7 花市生花店 "Hanaichi" Flower Shop
- E8 万世橋交番 Police Box at the Mansei Bridge
- E9 植村邸 House of Uemura
- E10 丸二商店(荒物屋) "Maruni Shoten" Kitchenware Store
- E11 村上精華堂(化粧品屋) Cosmetic Manufacture "Murakami Seikado"
- E12 川野商店(和傘問屋) "Kawano Shoten" Oil-paper Umbrella Wholesale Store
- E13 大和屋本店(乾物屋) "Yamatoya Store" Grocery Store
- E14 万徳旅館 Mantoku Inn

◆ 中へあがれる建物。ただし見学できない部屋などがあります。
※靴を脱いでお上がりください。

## 屋外展示物 Outdoor Exhibits

① 午砲 Cannon for signaling noon
② 皇太子殿下御仮寓所跡(記念碑) Marker of Crown Prince Akihito's temporary residence
③ 八王子の穀倉 Hachioji Granary
④ 瀬戸岡1号墳 Stone Chamber at Seto-oka No.1
⑤ 井の頭弁財天道 Guide-stone to the Inokashira Benzaiten (Goddess of Arts and Wisdom)
⑥ 多摩川台8号墳(旧9号墳)[レプリカ] Stone chamber at Tamagawa-dai No.8 (former No.9:replica)
⑦ 方砂遺跡敷石住居址 Dwelling with flagstone floor at Katasuna
⑧ 御殿山遺跡敷石住居址 Dwelling with flagstone floor at Goten'yama
⑨ 奉造立庚申供養堂 Kōshin stupa for the repose of souls
⑩ 奉供養庚申塔 Kōshin stupa for the repose of souls
⑪ 庚申供養堂 Kōshin stupa for the repose of souls
⑫ 馬頭観世音 Stupa of Kannon, the Goddess of Mercy
⑬ 石橋三ケ所供養塔 Stupa for the repose of souls
⑭ 奉納百番観世音 Stupa of Kannon, the Goddess of Mercy
⑮ 石樋 Stone pipe
⑯ 石枡 Stone measure
⑰ 寛永寺灯籠 Stone lantern of the Kan'eiji Temple
⑱⑲⑳ 五輪塔 Five-ring stupa
㉑ 宝篋印塔 Hōkyōintō-type stupa
㉒ 皇太子殿下御勉学の地(記念碑) Marker of the site where Crown Prince Akihito studied
㉓ 石造り常夜灯 Stone lantern
㉔ 皇居正門石橋飾電燈 Electric light at the front gate of the Imperial Palace
㉕ 郵便差出箱(1号丸型) Mail box
㉖ 上野消防署(旧下谷消防署)望楼上部 Ueno fire department watch tower upper section
㉗ 銀座煉瓦街の煉瓦 Bricks of the Ginza "Bricktown"
㉘ 都電7500形 City train model 7500
㉙ ボンネットバス Cab-behind-engine bus

- インフォメーション Information
- 洗面所 Restrooms
- バリアフリートイレ Restrooms (Accessible Restroom)
- ベビーベッド Diaper-change unit

＊ 女子トイレにベビーベッドがございます。

- オストメイト Ostomate-friendly restroom
- 授乳室 Nursing room
- AED Automated external defibrillator
- エレベーター Elevator
- 電話 Telephone
- カフェ Cafe
- レストラン Restaurant
- wifi スポット Free Wi-Fi

## ビジターセンター

江戸東京たてもの園の正面出入口であるビジターセンターの建物は、歴史的建造物「光華殿」を改修したものである。ビジターセンター内には、来園者が自由に利用することができるインフォメーション、導入展示(多目的ホール)、図書コーナーのほか、ミュージアムショップなどがある。

## ミュージアムショップ＆カフェ

マスコットキャラクター「えどまる」のグッズや、復元建造物を撮影したオリジナル絵はがきのほか、江戸東京の建築や生活文化に関する書籍、レトロ感あふれるグッズなどを取りそろえている。ショップ奥のカフェでは、飲み物などを楽しむことができる。

## 店蔵型休憩棟

東ゾーンにある店蔵型休憩棟の1階は無料休憩所となっている。2階には武蔵野の味を伝える手打ちうどんや日替わり弁当を提供するたべもの処「蔵」がある。

## デ・ラランデ邸内カフェ「武蔵野茶房」

西ゾーンにある復元建造物「デ・ラランデ邸」では、邸内及びテラスにて、喫茶や食事を楽しむことができる。